

千葉県・千葉市教員等育成指標～信頼される質の高い教員等の育成を目指して～

教員の資質向上に関する指標

六つの柱	構成要素	養成段階	千葉県・千葉市が求める教員像	ステージⅠ 【成長期】 (学級経営、担当教科指導等) 学級・教科担任等としての 自覚と資質能力の向上	ステージⅡ 【発展期】 (学年経営、校務分掌主任等の ミドルリーダー) ミドルリーダーとしての 自覚と資質能力の向上	ステージⅢ 【充実期】 (学校運営等、職員全体へ 指導・助言) チーム学校をリードする 自覚と資質能力の向上	
教職に必要な素養	使命感 責任感 教育的愛情 高い倫理観 コンプライアンス 服務規律の遵守	教職の意義 教員の役割 教職への意欲 課せられる義務等	○人間性豊かで、 教育愛と使命感に 満ちた教員	教員としての職務に対する使命感、責任感、教育的愛情を持ち、教職に対する強い情熱を持っている。また、教育公務員として高い倫理観と不祥事根絶への意識を持ち、服務規律を遵守し、公正に職務を遂行している。	豊かな人間性や人権意識を持ち、他の教職員や子供、保護者、地域住民等と、自らの意見も効果的に伝えつつ、円滑なコミュニケーションを取り、良好な人間関係を構築している。		
	社会性 コミュニケーション能力	広い視野		教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探求心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続けている。	教育に関し、社会的・制度的事項やその意義、歴史等について理解するとともに、最新の動向に関し情報を収集している。		
	社会の変化への対応 広い視野 学び続ける意欲	学び続ける意欲 コミュニケーション能力		各教科等においてそれぞれの特質に応じた見方・考え方を働かせながら、資質能力を育むために必要となる各教科等の専門的知識を身に付けている。	子供の心身の発達の過程や学習過程に関する理解に基づき、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、学習者中心の授業を創造し、実践している。	子供の心身の発達の過程や特徴を理解し、一人一人の状況を踏まえながら、子供との信頼関係を構築するとともに、可能性や活躍の場を引き出す集団作り（学級経営）をしている。	
	教職に関する教養	教育の理念、歴史、思想 社会的・制度的・経営的事項等 についての基礎的知識（選択）		○高い倫理観を持ち、 心身共に健康で、 明朗、快活な 教員	教育相談の意義や理論を理解し、子供一人一人の課題の解決に向け、個々の悩みや思いを共感的に受け止め、園・学校生活への適応や人格の成長への支援をしている。	人権教育の理念のもと、いじめ、不登校、情報モラル等生徒指導上の課題に対し、他の教職員、保護者、関係機関等との連携を図りながら、子供に対し適切に指導している。	
学習指導的指に導く	教科等についての専門性	学習指導要領、幼稚園教育要領に示された教科領域の目標、ねらい、内容	○幅広い教養と学習指導の専門性を身に付けた教員	キャリア教育や進路指導の意義を理解するとともに、県の産業構造等を把握し、地域・社会や産業界と連携しながら、園・学校の教育活動全体を通じて、子供が自分らしい生き方を実現するための力を育成している。	カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、教科等横断的な視点や教育課程の評価、人的・物的な体制の確保・改善等の観点を持って、組織的かつ計画的に教育課程を編成・実施し、常に園・学校の実態に応じた改善をしている。		
	授業実践 指導技術	基礎的な学習指導理論や発達や学びの過程 指導技術 具体的な授業設計や保育を構想する方法		○幼児児童生徒の成長と発達を理解し、 悩みや思いを受け止め、 支援できる教員	学校組織マネジメントの意義を理解した上で、限られた時間や資源を効率的に用いつつ、学校運営の持続的な改善を支えられるよう、校務に積極的に参画し組織の中で自らの役割を果たしている。	家庭や地域、就学前から高等教育までを通した異校種間及びその他の関係機関との連携・協働に努め、地域とともにある学校づくりに取り組んでいる。	
生徒指導等に関する実践的指導力	子供の発達過程や特徴の理解と信頼関係の構築 生徒指導	子供の心身の発達の過程、特徴 生徒指導の意義及び原理、生徒指導の進め方	○組織の一員としての責任感と協調性を持ち、互いに高め合う教員	研修履歴の記録を基に、自らの学びを振り返り、研修（研究）における成果と課題を把握するとともに、教員としての資質能力の向上を図るために必要な研究と修養に努めている。また、校内研修を教員同士の学び合いの機会として捉え、積極的に参加している。	特別な配慮や支援を必要とする子供の特性等を理解し、きめ細かく支援するために、子供一人一人の教育的ニーズを把握している。		
	教育相談 個別指導	学校における教育相談の意義及び理論 教育相談を進める際に必要な基礎的知識		特別な配慮や支援を必要とする子供の特性及び発達の理解	他の教職員、保護者、関係機関等と連携しながら、特別な配慮や支援を必要とする子供の教育課程の編成について適切に対応し、誰一人取り残すことのない個別最適な学びの実現を図っている。また、状況に応じた生活上の支援を工夫している。		
	人権教育の推進 生徒指導上の課題への対応	人権教育の理念 理念に基づく、いじめ等の生徒指導上の課題に対する適切な対応の在り方		学習上・生活上の支援に関する知識や方法	学校におけるICT利活用の意義を理解し、学習指導等にICTを効果的に活用するとともに、子供の情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための授業を実践している。	教育相談、いじめや不登校等の対応、子供の特性に応じた支援等にICT（遠隔・オンライン教育を含む）を効果的に活用している。	
	キャリア教育 進路指導	意義及び理論、指導の在り方等		情報機器の操作 情報機器の活用に関する理論及び方法 ICTを活用した校務の推進	ICTは学校教育を支える基本的なツールとして必要不可欠なことを理解し、教育データの蓄積・分析・利活用等を通して、校務の効率化を進めている。		
チーム学校を支える資質能力	教育課程の管理・運用	各学校で編成される教育課程についての意義及び編成の方法 各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義	ICTや情報・教育データの利活用等				
	校務分掌と連携・調整	指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像					
	家庭や地域、関係機関等との連携・協働	取組事例を踏まえた家庭・地域との連携、協働の仕方 学校の担う役割が拡大する中、内外の関係機関との連携、分担して対応することの必要性					
	研修（研究）体制	研究と修養の必要性 資質能力の向上の必要性					
要特別とする配慮や支援を必要とする子供の理解	特別な配慮や支援を必要とする子供の理解	特別な配慮や支援を必要とする子供の特性及び発達の理解					
	学習上・生活上の支援	学習上・生活上の支援に関する知識や方法					
ICTや情報・教育データの利活用等	学習指導に関するICT利活用	情報活用能力の育成 ICTを活用した教科の指導法					
	生徒指導に関するICT利活用	ICTを活用した子供の支援					
	ICTによる校務効率化	情報機器の操作 情報機器の活用に関する理論及び方法 ICTを活用した校務の推進					

校長の資質向上に関する指標			
四つの柱	構成要素	指標	
校長に必要な素養	総合的な人間力	豊かな人間性に加え、的確な判断力、決断力、交渉力等、学校組織のリーダーとしての人間の魅力を備え、教職員や子供、保護者、地域住民等と円滑なコミュニケーションを取り、信頼関係を構築している。	
	教育の意義や社会的役割の理解	校長としての使命感、責任感、教育的愛情を持ち、教育が社会的な課題を解決することに資するものであることを理解し、より高度な自律的な学びを継続している。	
学校ビジョンの構築・提示	教育方針、施策等の把握及び推進	社会の状況や教育を取り巻く環境の変化を注視しながら、国や県及び市町村の教育計画や施策に精通し、学校経営に生かしている。	
	情報収集・整理・分析・共有	学校教育活動に関わる様々なデータや学校が置かれている内外環境に関する情報（自らの学校の強み・弱み、昨今の学校を取り巻く課題など）を収集している。また、収集した情報を整理・分析し、適切な状況・課題把握を踏まえ、新たに取り入れるべき知識や技能に関して教職員と認識を共有している。	
	学校経営方針の策定	目指す子供像を明確にした特色ある学校ビジョンを描き、教育成果の向上を目指して、学校経営の基本方針及び計画を構築し、具体的かつ明確に教職員に発信し、共有している。	
一人一人の強みを生かしたチーム学校の実現	人材育成	校内研修の充実	学校を教職員の学びのコミュニティと捉え、自律的な研修組織として機能させていくことが重要であることを認識し、自校の教育課題に対応した協働的な学びを学校組織全体で行い、その成果を教職員間で共有するなど、校内研修を活性化している。
		資質向上に関する指導助言	教職員の研修履歴を把握し、学校が目指す教育を進めるために必要な専門性・能力の確保などの観点から、対話に基づき研修受講の奨励（情報提供や指導助言）を行っている。また、定期的に授業等の観察や指導助言を実施するなど、自校の教職員の資質能力の向上に適切に関わっている。
		人材育成と学校の活性化につながる人事評価	教職員の校務の取組状況を把握し、能力と業績を適正に評価することで、教職員との信頼関係を構築しながら、一人一人のキャリアステージ等に応じた指導助言により、資質向上を促し、学校全体を活性化している。
	組織マネジメント	カリキュラム・マネジメント	「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、必要な人的・物的資源等を効果的に組み合わせながら教育課程を編成し、その評価と改善を行うなど、カリキュラム・マネジメントを推進している。
		多様な専門性を有する人材を生かした組織づくりと運営	学校運営に関わる多様な人材及び教職員が自らの専門性や職の特性を發揮できるようにするために、それぞれの役割を適切に分担し、学校運営に参画する機会を一層拡大するとともに、常に学校の組織及び運営を見直し、学校組織全体としての総合力を高めている。
		業務改善・効率化働き方改革の推進	教職員の在校等時間を把握し、限られた時間や資源を効率的に使い、教育目標を達成するよう、教職員の働き方改革やメンタルヘルス維持の意識を持って業務に当たっている。また、学校運営に関わる多様な人材との協働及び教職員の業務分担・組織体制の見直し、ミドルリーダーの活躍の促進等に取り組んでいる。
		危機管理体制の構築	教職員に使命感や倫理観の自覚を促し、不祥事根絶への取組を進めている。また、教職員の役割分担と責任を明確にした危機管理マニュアルを作成し、教職員全体で学校安全に取り組む組織づくりを進め、事故等の未然防止や事故等発生時において、組織的に対応ができるようにしている。
	学校外との連携	家庭・地域との連携	家庭や地域に学校経営方針や取組状況等を発信し、共有するとともに、その力を生かし、連携・協働して学校運営を行っている。また、学校運営協議会（コミュニティスクール）等の機能を生かして、学校・家庭・地域が子供たちの学びの充実のために、熟議し、協働し、活動後の評価をして、また次の活動につなげていくというPDCAサイクルをリーダーシップをとって進めている。
		他校等との連携	自校の課題に応じて他校（近隣校や同じ課題を持つ学校等）の情報を収集し、学校運営に生かすとともに、幼保小連携等、異校種との連携や情報交換を積極的に行っている。
		関係機関等との連携	学校教育活動を充実するために、外部人材や企業等の参画を促し、学校の教育力を高めている。また、学校内の諸問題を適切に把握し、状況に応じて外部の専門家や児童相談所、警察などの関係機関と連携・協働して対応している。